

第三者評価委員会結果報告（速報）

■ 第三者評価委員会

中部運輸局では、協議会が定める上位計画等と生活交通確保維持改善計画との関連性や、地域全体の公共交通ネットワークの中における補助対象事業の位置づけを整理し、事業理念に基づく地域全体の公共交通ネットワークとしての事業評価を行うこととしている。

各地域の公共交通会議が行った自己評価を二次評価するため、中部運輸局が「地域公共交通確保維持事業」第三者評価委員会を開催しています。

今年度は、平成29年2月13日に名古屋合同庁舎1号館 11階 運輸大会議室において行われました。

■ 評価委員

【学識経験者】

伊豆原 浩二 愛知工業大学客員教授（座長）

加藤 博和 名古屋大学大学院准教授

【行政（国）】

中部運輸局交通政策部 北原部長

中部運輸局鉄道部長（代理 加藤課長）

中部運輸局自動車交通部長（代理 白木課長）

中部運輸局海事振興部長（代理 中村課長）

■ 説明

各地域協議会が、事前に提出した自己評価様式により説明、質疑・評価を行いました。

■ 評価委員との質疑等

豊山町の自己評価に対する質疑・評価は次のとおり。

【伊豆原座長】今の説明は、補助事業を中心としたものか。

【豊山町】基本的には、補助事業に関わる取り組みについて説明した。

【伊豆原座長】連携計画、網計画を策定する際は、何らかの課題があったはず。どのような課題があって、それに対して地域公共交通会議がどのように対応したかを説明していただきたいかった。例えば、利用者は増加しているとの説明があったが、その理由について把握しているか。

【豊山町】増加した要因についてのアンケート調査は行っていない。

【伊豆原座長】アンケート調査をやる必要はない。実際に乗車して利用者に直接聞けば簡単に分かることだと思う。分析するためにはアンケート調査とすぐ安直に決めつけるが、費用がかかるから実施しないということになりがち。

【豊山町】利用者数については、日報等により把握している。主な増加要因としては、三菱航空機の従業員の増加、航空旅客数の増加など社会的要因が多いと考えられる。タウンバスについては、自分も実際によく利用しているが、昼間でも背広の方が多く利用されている。コミュニティ・バスとしては珍しく生活交通だけでなくビジネス利用の多い路線だと思う。

【伊豆原座長】 3月に市バスの延伸社会実験も行われるとのことだが、企業市民への情報提供も取り組んでほしい。

【豊山町】 地域公共交通会議の構成員には企業も入っているので、それを通じるなどして広報に努めたい。

【加藤先生】 豊山町を一言でいえば、鉄道はないけどバスで色々な所に早く便利に行ける。このことを如何にアピールできるかに尽きる。

【伊豆原座長】 周辺市との広域的な取り組み、小牧市・名古屋市・春日井市との連携がものすごく大切。情報交換・調整を積極的に行い利便性の向上に繋げていただきたい。

■ 全体的な評価等（他の協議会に関する評価を含む）

- ・公共交通は、市民間の利害がそれほど対立しない問題なので、関心が低くなっていく。如何に関心を高め、それを持続するかが問題。
- ・各公共交通会議とも一生懸命頑張っている。市民に自分たちがやっていることを分かってもらうというスタンスで自己評価していただきたい。
- ・自己評価の様式がワード的な使用法となっていた。市民にどのような課題があり、どのように取り組んでいるか分かってもらうには簡潔であることが重要。プレゼンやポスターにすぐ転用できるようにした方がいい。
- ・補助事業だけでなく地域公共会議で取り組んでいることのアピールをしてほしい。

■ 二次評価結果について

最終的な二次評価結果については、後日文書で通知されます。通知が届きしだい直近の会議でご報告します。